



創作落語

方向音痴の^{ほうこ}方子さん



(携帯電話)

方子「もしもし、修さん、元気？」

修「おう一、方子、どないしたんや」

方子「単身赴任ご苦労様」

修「なんや、とってつけたみたいに」

方子「明日そっちへ行くね」

修「なにしに来るんや」

方子「何しにって、暑うなってきたから布団夏用に替えんといかんから」

修「わざわざ来んでもええぞ。遠いんやから」

方子「そんなこと言うて、ほってたら汗ダラダラかきながら冬布団で寝るんでしょ」

修「なんも掛けんと寝たらええがな」

方子「風邪ひくやないの。とにかく行くから」

修「どないして来るんや」

方子「うちの車よ」

修「く、くるまあ！正気か！」

方子「なによ！」

修「そ、それだけはやめてくれ！電車があるやろ」

方子「入れ替えた冬布団背負て帰れ言うん？」

修「そうしてくれ。絶対迷うぞ！」

方子「大丈夫よ」

修「お前が大丈夫いう時が一番恐ろしい」

方子「真衣も連れて行くね。夏休みやから」

修「そんな、真衣がかわいそうや〜」

方子「もう切るよ」

(ショッピングモール)

真衣「わー、きれいなショッピングモールやなあ」

方子「初めて来たけどすごいな。ちょっとジェラート食べよか」

真衣「やったー！」

方子「やっぱり宇治にした方がよかったかな」

真衣「いっつもお母さんはそんなこと言う」

方子「お母さん、迷ってまうんやわ」

真衣「真衣のはチョコでおいしかった」

方子「そうや、寝具売り場はどこかなあ。こない広かったら分からへん」

真衣「あっちや！」

方子「は一やれやれ、ええのが安う買えてよかった」

真衣「お母さん、このショッピングモールめっちゃ広いけど、パーキング大丈夫？」

方子「えへん！今日はいつものドジ母さんとちがうで。このチケットにちゃんと番号書いといたから。うふふ」

真衣「さーすがあ！今日は久しぶりにお母さんとドライブ、ルンルンや」

方子「ぎゃー！」

真衣「ど、ど、どないしたん？」

方子「番号の上に売り場のスタンプ押してあって、見えへん。どないしょ」

真衣「どこに車止めたか覚えてないん？」

方子「番号書いたから安心してた。何階やったか、真衣覚えてない？」

真衣「えー、すぐエレベーター乗ったから、うーん」

方子「あのう、私の車どこですかねえ？」

警備員「奥さん、そら無茶ですわ。まあ思い出して自分で探してもらわな」

方子「はあ、まあそうですねえ」

真衣「あつたー！もう汗びしょびしょ」

方子「は一、しんど。息が切れた。真衣ごめんな」

(車内)

方子「さあ、はよ行かな。部屋の掃除もしたいし」

真衣「お父さんどんどこに住んでるん？」

方子「ワンルームで、布団が敷いてあるだけ」

真衣「いつになったら帰って来るん？」

方子「ようわからんみたい。別の会社出来たばっかやから、たいへんなんやて」

真衣「いっつも忙しそうや、お父さん」

方子「今日は部屋ぴっかぴかにしてあげよ」

真衣「私も手伝うね」

方子「ええ子や、真衣は」

真衣「みんなに言われてる」

方子「それ自分で言うか」

真衣「えへへ」

方子「今高速に入ったから、もうすぐ海が見えるきれいな道路になるで」

真衣「ドライブ！ドライブ！」

方子「久しぶりやもんね、真衣とドライブ」

真衣「それでも海なんか全然見えへん」

方子「きれいな大きな橋いくつも通るはずやけどなあ」

方子「もしもし修さん」

修「おう、阪神高速入ったか？ポアイから？」

方子「そんなん通らへんかった。でも阪神高速」

修「湾岸線に乗らんとあかんがな。そやから！ほんまに」

方子「ちょっと間違えたかな。えへへ」

修「しゃーない。そのままとにかく大阪へ行くしかない」

方子「わかった。大丈夫や」

修「こわいからそれ言うな。標識よう見るんやぞ」

方子「着いたら電話するわ」

真衣「海見えへんやん」

方子「お母さんちょっとミス。海は帰りに見よな」

真衣「お腹すいた」

方子「高速下りたら何か食べよな。何がええかなあ」

真衣「ハンバーガー」

方子「やれやれやっと大阪や」

真衣「ハッピーセット」

方子「もうちょっと待ってな」

真衣「もうしんどい」

方子「あれ？おかしいなあ。なんで？奈良方面？」

「もしもし」

修「着いたか。ご苦労さん」

方子「なんでか奈良方面って標識出てる」

修「なんでやねん！あーもう」

方子「間違えたみたい」

修「そやから言うたやないか！」

方子「私どこにおるんやろ？」

修「危ないからとにかく高速下りてくれ」

方子「インターから出たよ」

修「もうしゃーない。今からタクシー飛ばしてそっちへ行く」

方子「どこ？ここ」

修「俺が聞いとるんや！近くに何が見える？」

方子「ポスト」

修「あほか！そんなもんどこにでもあるやろ」

方子「犬が散歩してる」

修「動いとるもん言うてどないするんや！おちよくつとるんか」

方子「大きいでえ」

修「サイズなんかきいてへんねん」

方子「熊みたいやで」

修「熊でもトラでも動いとるもんはあかん」

方子「もうちょっと走ってみる」

修「やめてくれ！頼むからじっとしとってくれ」

方子「セブンイレブンの駐車場に入った」

修「そやからなんか地名分かるもん言うてくれ」

方子「宿院店で書いてある」

修「堺やな。行くから」

方子「そんなことなんで分かるん、天才や」

修「じっとしとれよ。真衣は？」

方子「おなかすいて怒ってる」

修「かわいそうに。待っとれよ。お父さんがもうすぐ行くから」

方子「来てくれたん？すんません」

真衣「やあお父さん、それ会社の服や、初めて見たわ」

修「お父さんな、会社からタクシー乗ってきたんや」

真衣「なんかかっこええわ」

修「そうかあ。おいしいもん食べに行こか」

(ワンルーム)

方子「お世話かけてしもてえらいすんませんでした」

修「帰り気いつけてくれよ」

方子「いくらなんでも帰りは大丈夫や」

修「おーこわ、その大丈夫ってのがほんまにこわい。

真衣、お父さん会社に戻るからな」

真衣「いつ帰ってくるん？」

修「お盆には帰るからな」

真衣「プール連れて行ってね」

修「まかしとけ。宿題しとくんやぞ」

真衣「もうばっちりや」

修「ええ子や、真衣は」

真衣「みんなに言われてる」

修「自分で言うか」

方子「さあ掃除しよ！」

真衣「うわー！トイレきたな」

方子「お風呂もえらいことなってるがな」

(車内)

真衣「お父さんの部屋、ピカピカになったね」

方子「冬布団も積んだし、出発や」

真衣「のど乾いた」

方子「ほんまやな、ちょっとカフェよって疲れとろか」

真衣「わーい」

方子「さあ帰ろ。あれ？どっちやったかな？」

真衣「お母さん、来たところへ戻ってるで。ドライブいやや」

方子「ほら、夕焼けがきれいや。外見とり」

真衣「夕焼けなんかどうでもええ。お家帰りたい」

方子「海が見えんとあかんのやけど。おかしいなあ」

真衣「山ばっかやで、お母さん」

方子「おかしいなあ」

真衣「どんどん山奥へ来てる！」

方子「ちょっと止まろか」

真衣「もういやや、いやや、うわーん！」

方子「泣きないや。お父さんに電話するから。もしもし」

修 「もう着いたか？」

方子「なんか山奥へ来てしもた」

修 「もうなにやっとなや！真衣は？」

方子「泣きながら寝てしもた」

修 「真衣をえらいめにあわせてから、ほんまに。

この忙しいのに日に二回も仕事抜けられへんぞ」

方子「もうしゃーない、あんたの布団あるし車内泊するわ」

修 「車内泊ちゅうより、しゃーない泊やな」